

現職教育

1 研究主題 「自分の考えを明確に記述する力の育成を目指して」

2 研究の具体

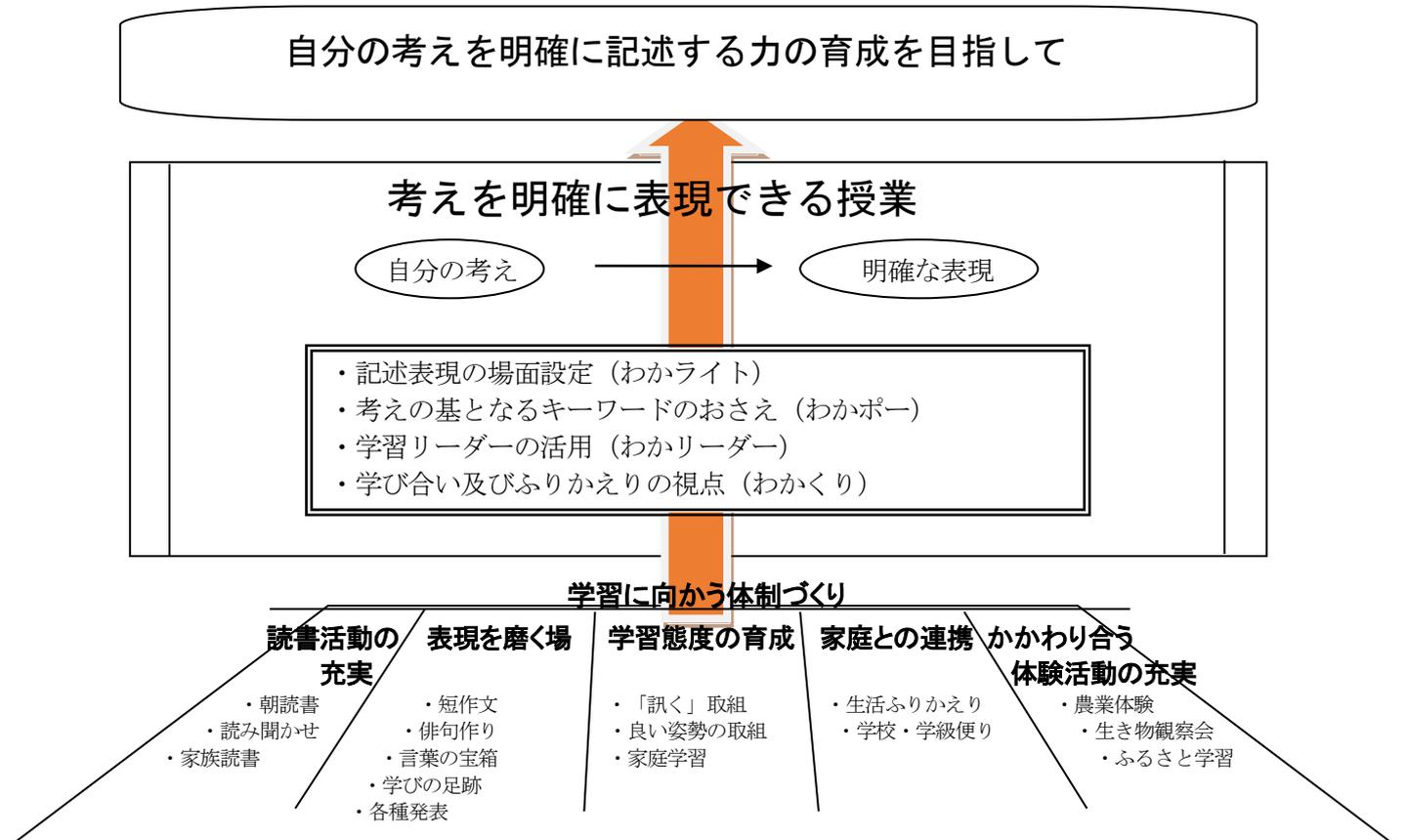
(1) 主題設定の理由

本校は昨年度、「自分の考えを持ち、学び合う子の育成 ―深まりのある学び合いを目指して―」を主題として研究を進めてきた。算数科を中心に話し合いによる学びを重点とし、授業の工夫改善を行った。経年的に取り組んでいる重要なキーワードの提示（わかポー）を軸として、表現の場を確保するための授業の型（わかリーダー）、学び合いとふりかえりを連携させた視点の提示（わかくり）などの手だてによって児童の理解を確実なものとし、確かな基礎の上に成り立つ表現活動の充実を図った。結果として、児童が自信を持って話そうとする姿や、互いの考えを指摘、補足し合いながらよりよいものへと練り上げようとする姿が見られるようになった。

学力調査等の結果でも一定の成果が見られたものの、記述問題の正答率が相対的に低いという課題が見られた。授業の中で話している様子では、適切な用語を用いながら理路整然と表現できているように感じていたが、「書く」ことになるとそれらが抜け落ちてしまっていたり、時間内に書ききれなかったりする児童が多かった。この傾向は算数科に限らず、他の教科全般においても同様であった。

そこで本年度は児童の表現力向上に成果を示した昨年度の取組を継続するとともに、全教科を対象にして「記述」に重点を置いた研究を進めることとした。授業の中で記述の場面設定を行いながら文字や文章という形で表現する機会を増やすことで、これまで十分だと思っていた表現を見直し、児童の力をさらに磨き上げていきたい。

(2) 構想図



(3) 研究の視点

<授業づくり> 記述の場面設定 + 理解を深める学び合い

わかライト

記述する力を高めるための、記述表現の場面設定をする。

表現し合うためのもととなる記述であったり、深まった考えを記述したりし、学び合いと絡めて場面設定を行う。型を示しすぎないことで学び合いを活発にする。

わかポー

問題解決や表現の手がかりとなるキーワードを提示する。

①落としてはいけない算数用語 (説明の際にできるだけ用いさせ、用語への意識を徹底させる。)

②必要となる考え方 (精選し、端的な言葉にする。)

※学び合いを促すため、児童によってはあえて提示する量やタイミングを不足させる

わかリーダー

学習リーダーの活用と授業の型の定着により、主体的な学びの場を作り上げる。

わかくり

学び合い及びふりかえりの視点の提示で学びの自己評価をする。

研究の検証は4項目にて行う、

①児童アンケート(毎月) ②授業検証(毎月) ③研究授業参観(年3回)

④記述力診断テスト(年3回)

<基盤づくり> 書く力の総合的な向上

短作文ウィーク

月…条件記述、火…グループ推敲、木…清書、金…交流による学び
帯タイムで3週間に1週設け、記述に関する力を高める。

学習の足跡

単元末に数時間分の学びを振り返りながら視点に沿った記述をすることで、要点をまとめて書く力を高める。

言葉の宝箱ファイル

身に付けさせたい表現集のファイルに自らの習得状況をチェックしていくことで語彙力を高める。

学習の個人カルテ

単元ごとのつまずきを記録し、指導・改善につなげる。国語、算数のみ **別紙参照**

読む力の育成 朝読書の習慣定着

<学習のあいさつ>

教室内の全児童が教師と目を合わせてから号令をかける。

《授業のあいさつ》 *号令係が全体の様子を見て言う

はじまり 「起立。今から〇時間目の勉強を始めます。」(椅子は入れる)

「始めます。」「礼。着席。」

おわり 「起立。これで〇時間目の勉強を終わります。」

「終わります。」「礼。」次の時間の準備をしてから、解散する。